

私の名前は玉越ゆきあです

辺境の小さな村で作物を作って暮らしています
人口は少ないですが、みんなで力を合わせて
自給自足で生活しています



何不自由なく暮らしてきた私も
もう少しで結婚ができる歳になりました
もうじき、結婚相手を決める行事があるのです

祭り当日、この日は
深夜まで明かりの
消えない家があった

『イケッ!!!イケッ!!!』

『あっ♡ あっ♡』

『おい早く変われッ
一発でしたら
交代だろ!』

『ひゃっ♡
はっ♡』

『くっぞ我慢できねえ
くわえてくれッ!!!』

『あっ♡♡』

『あんま無駄打ちすると
後悔するんぞ!』

『うるせえ!!!』

後悔なんて先でも後でも
勝手に立たせてる!!!

オレのは今勃ってんだッ!!!』

『オラアッ
イッたんなら早く
変われえ!』

『イッてねえど
漏れてるだけだあ』

『ああああッ
ずっこの顔にぶっかけてえって
思ってたんだ!!!』

『受け取ってくれえ!』

『ひゃんッ♡』

あーあー
あーあー

あーあー
あーあー
あーあー

あーあー
あーあー
あーあー

『アッーアッーアッーアッー』



ひちゅっ
あっ

『くそでちまった!!!
ずっとこの日を楽しみに
してたのぼっ!!!』



『ゆきああー!
絶対オラの子供孕ませて
やつからなッ!!!』



『ゆきあッ!! ゆきあッ!!
オラの子供さ産んでくれえ!!』

『うっ♥ うっ♥
おじさま♥...♥
おじさま♥...♥もうッ...
あ♥♥あ♥♥あ♥♥』

『あ♥♥ あん♥♥
おじさま♥
たくましいです♥』

『きんもちええッ
きんもちええどおお!!
射精しとるのにッ
まだケツてまうどお』



『ほれ、ゆきあちゃん
次はわしの番じゃ』



グ

ポオ

ゴクッ
ゴクッ

ゴクッ
ゴクッ

それは、ある年齢を迎えた娘の誕生日に村の男達とまぐわい

見事、子を宿らせた男の嫁を迎える

この祭りは代々受け継がれてきた事でありこの事に疑問を持つものなどない





この習わしを続けてきたからこそ
この村では子供が多く



過疎化が進む現代でも
限界集落というまでには至っていない













